

お子さんのアレルギー血液検査をご希望の方へ



- 代表的なアレルギー疾患として、**食物アレルギー**、**ぜん息**、**アレルギー性鼻炎／花粉症**、**アトピー性皮膚炎** があります。
- アレルギー疾患の原因物質を「アレルギー」と言います。
- アレルギー疾患を発症するには、2つの段階があります。
 - ① **感作**：アレルギーと接触し、細胞が抗体を作る段階
 - ② **発症**：感作を受けた後に、症状が出現する段階
- **血液検査では、感作を受けているかどうか分かります。**
- 感作を受けていても、症状がなければ「アレルギーがある」とは考えず、特別な対応は必要ありません。
- 症状がないお子さんに血液検査を行うことは、痛い思いをさせるだけになりますので勧められません。
- 多種類のアレルギーをセットで調べることも可能です。
- アレルギーがあり、集団生活での対応に配慮が必要な場合は、生活指導管理表に基づき対応することが勧められます。



『子どものぜん息&アレルギーシリーズ①』より引用（一部改編）

1) 食物アレルギー

[症状]

- 通常、原因となる食べ物を**食べてから数分～2時間以内**に症状が出ます（即時型反応）。
- 症状としては、じんましん（かゆみを伴う）、目・口の周りの赤み、喉のかゆみ・違和感が多いです。
- ゼーゼー／ヒューヒューとした呼吸、息苦しさ、腹痛、嘔吐、意識の変化を伴う場合は重症化を疑う症状です。急激に状態が悪化する可能性があり、救急車を呼んでください。

[原因アレルゲン]

- 年齢により、原因となりやすい食物が異なります。
- 食物により、治りやすさにも違いがあります。
- 食べたものの情報（記録）と検査結果を組み合わせることで、確かな診断に結びつきます。

※じんましんは食物アレルギー以外の原因でも出現します。検査で「反応あり」と出ても、じんましんの原因でない可能性もあり、検査結果の解釈は慎重に行う必要があります。

年齢群	0歳	1歳	2,3歳	4～6歳	7～19歳	20歳以上	合計
症例数	1270	699	594	454	499	366	3882
第1位	鶏卵 62.1%	鶏卵 44.6%	鶏卵 30.1%	鶏卵 23.3%	甲殻類 16.0%	甲殻類 18.0%	鶏卵 38.3%
第2位	牛乳 20.1%	牛乳 15.9%	牛乳 19.7%	牛乳 18.5%	鶏卵 15.2%	小麦 14.8%	牛乳 15.9%
第3位	小麦 7.1%	小麦 7.0%	小麦 7.7%	甲殻類 9.0%	ソバ 10.8%	果物類 12.8%	小麦 8.0%
第4位		魚卵 6.7%	ピーナッツ 5.2%	果物類 8.8%	小麦 9.6%	魚類 11.2%	甲殻類 6.2%
第5位			甲殻類 果物類 5.1%	ピーナッツ 6.2%	果物類 9.0%	ソバ 7.1%	果物類 6.0%
第6位				ソバ 5.9%	牛乳 8.2%	鶏卵 6.6%	ソバ 4.6%
第7位				小麦 5.3%	魚類 7.4%		魚類 4.4%

『よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック』より引用

2) ぜん息

[症状]

- ゼーゼー／ヒューヒューと音がし、呼吸が苦しくなります（**ぜん息の発作**）。
- **発作を繰り返し、慢性的な気管支の炎症が疑われる場合に、ぜん息と診断されます。**
- 小さなお子さんでは気管支が細いため、ぜん息でなくてもゼーゼー／ヒューヒューを起こしやすいです。

[原因アレルゲン]

- **ダニ、ハウスダストが重要**です。動物の毛・フケ、カビなどもアレルギーとなります。
- アレルギー性鼻炎と関連する場合、花粉の影響も考慮します。
- 煙、空気の汚れ、風邪のウイルス、気圧の変動などは血液検査では分かりませんが、ぜん息の発作を引き起こす要因として重要です。

3) アレルギー性鼻炎

[症状]

- **鼻水（透明で水っぽい）、鼻づまり、くしゃみ**が主症状です。目のかゆみ・充血も見られやすいです。
- 季節を問わず症状が出るものを ① **通年性アレルギー性鼻炎**、花粉の飛ぶ季節に症状が出るものを ② **季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）** と呼びます。
- 通年性アレルギー性鼻炎は、ぜん息やアトピー性皮膚炎を合併することもあります。
- 季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）では、口腔アレルギー症候群（果物や野菜を食べて口がかゆくなる）を合併することもあります。

[原因アレルゲン]

① 通年性アレルギー性鼻炎

- **ダニ、ハウスダストが重要**です。
- 動物の毛・フケや、ガなどの昆虫が関係することもあります。

② 季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）

- スギ・ヒノキ・ハンノキは2-4月、シラカバは5-6月、イネ科は5-9月、ブタクサ・ヨモギは9月頃と、花粉の飛ぶ季節に一致して症状が出ます。
- 口腔アレルギー症候群では、花粉の種類によって口症状を起こしやすい果物を推測できます。

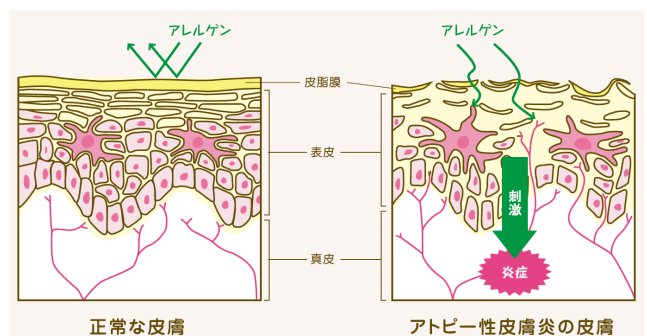
4) アトピー性皮膚炎

[症状]

- **かゆみを伴う皮膚の湿疹が慢性的に続き、良くなったり悪くなったりを繰り返します。**
- 乳児期から湿疹が治らずに続く場合、アトピー性皮膚炎の疑いが強く、食物アレルギーと関連している可能性があります。
- ぜん息、アレルギー性鼻炎との合併も見られます。
- 適切なスキンケアと塗り薬を続けることで、症状を抑えて綺麗な肌の状態を保てることが多いです。

[原因アレルゲン]

- 1つの原因が症状を引き起こすのではなく、複数の原因が重なり合って症状が悪化します。
- 代表的な悪化要因として、皮膚の細菌、ダニ、カビ、汗、動物の毛・フケがあります。
- 湿疹を起こしている皮膚はバリア機能が低下しているため、様々なアレルゲンが皮膚から侵入して感作を起こしやすい環境であり、**血液検査では複数の物質に対して陽性反応が見られやすいです。**しかし、**感作の段階でありアレルギーを発症していないことも多く、結果の解釈には慎重な対応が必要です。**
- 適切なスキンケアと塗り薬を継続して肌を良い状態に保つことは、皮膚からのアレルゲンの侵入を減らし、他のアレルギー疾患の予防にも繋がります。
- 離乳食を食べているお子さんでは、口周りの湿疹に食べ物が触れることで感作を繰り返しやすいです。毎回の食事の前に、ワセリンなどの塗り薬を口周りにたっぷり塗ると、皮膚からの感作が減り、食物アレルギーの予防や湿疹の改善に繋がります。



『小児アトピー性皮膚炎Q&A』より引用

アレルギー検査は、こうしたアレルギーに対する知識を元に、症状や経過と合わせて結果を解釈する必要があります。血液検査だけでアレルギー疾患の診断はできないこと、症状のないお子さんには検査は勧められないこと、アレルギー疾患がある場合は生活指導管理表を用いた対応が重要であることをご理解の上、検査を受けるようお願いします。

